

せらワイナリー 青い鳥プロジェクト

略称“青プロ”

— ブッポウソウを育む世羅の豊かな自然が醸す“せらワイン” —

★絶滅の恐れのある美しい渡り鳥「ブッポウソウ」を絶滅から救う

→ ブッポウソウが大好きなコガネムシが集まるブドウ畑に巣箱をかけて子育てを応援。

★農家のブドウづくりを応援する

→ ブドウの害虫・コガネムシを食べてもらい、ついでにカラスも追い払ってもらおう。

★青い鳥をシンボルとしたせらワインのブランディング（日本初！？）

→ ブッポウソウの子育てを応援する農家が育てた世羅産ブドウで醸す“せらワイン”。



写真 加藤 元廣さん

(株)セラアグリパーク・せら夢公園

1. 趣旨

世羅町は絶滅の恐れのあるブッポウソウの数少ない生息地のひとつです。この鳥を守るために三原野鳥の会(以下同会)などによって巣箱を設置する保全活動が取り組まれています。現在町内には同会により約30の巣箱が電柱に設置され、例年約20か所で営巣が確認されています。巣箱の設置場所を増やせば生息数の増加が期待されますが、これ以上増やすことは管理上困難な状況です。

ワインの原料となるブドウの害虫にはコガネムシの仲間がありますが、昆虫を主食とするブッポウソウが最も好んで食べるのがコガネムシなどの甲虫類です。

本プロジェクトでは、ブッポウソウの巣箱をワイン用ブドウ園周辺に設置することで、ワイン原料用ブドウを害虫から守ると同時に、ブッポウソウの生息地の拡大をはかり、あわせてブッポウソウを世羅町の豊かな自然のシンボルとして“せらワイン”のさらなるブランド化を推進します。

2. ブッポウソウについて

羽の色は美しい青色で、飛ぶと翼の白い斑が目立つハトよりやや小さい夏鳥です。毎年4月末から5月上旬にかけ越冬場所の東南アジアから日本に飛来し、大木の洞や巣箱を利用して4~5羽のヒナを育てます。「仏法僧」と鳴くのはフクロウ科のコノハズクですが、誤って美しいこの鳥に“ブッポウソウ”の名前がつきました。実際にはゲッゲツなどと濁った声で鳴きます。エサは昆虫で、ブドウの害虫でもあるコガネムシなどの甲虫類を好んで食べます。生息数の減少の原因は、営巣場所として利用していたキツツキが穴をあけた木製の電柱がコンクリート製や金属製に変更されたことだと言われており、巣箱の設置が生息数の回復に大きな成果を上げています。せら夢公園自然観察園でも昨年初めて巣箱を設置したところ、2年連続してヒナが巣立っています。

3. 取り組み

1)ブッポウソウの巣箱づくり体験(2019年11月)

農林中央金庫「国産材利用拡大活動」として実施しました。

2)巣箱を設置する協力者の募集

世羅ブドウ生産組合の組合員を対象にブドウ園周辺での設置場所の提供を募っています。

3)巣箱の設置(2020年4月下旬)

三原野鳥の会の指導の下、申し出のあった組合員のブドウ園周辺で最も適した場所を選定し、せら夢公園が設置します。事前に、三原野鳥の会を通じて中国電力やNTTへ許可申請を行います。

4)営巣調査(6月~7月)

ブドウ生産者は巣箱での営巣を確認し、三原野鳥の会へ調査データを提供します。

5)ブッポウソウ観察会(7月上旬)

大見自治センターとせら夢公園サポーターズクラブとの共催で実施する観察会の会場としてブドウ園周辺の設置場所を加え、青プロの取り組みをPRします。

6)醸造・販売

ブッポウソウの巣箱を設置したブドウ園の原料ブドウで醸したワインは、ブッポウソウをモチーフとした新しいワインとして販売します。



↑ブッポウソウの名を冠したフランスワイン「ローリエルージュ/ROLLIER ROUGE」

ローリエとはブッポウソウのこと。ブッポウソウの青色が艶のいいシラー(ブドウの品種)の色を思い起こさせることから名づけられた。ラベルにもブッポウソウが描かれている。価格4,000円前後(税込み)